

※今後、東京のグランドデザイン(仮称)の検討内容や委員の意見も取り入れていく予定

2040年代に想定する社会変化の見込み(都市づくりと密接に関連する事項)

■ 2040年代の社会の状況

- 高齢者と女性の社会参加
 - ⇒高齢者の健康寿命の向上と旺盛な労働意欲の活用
 - ⇒女性が安定して働ける環境が整備され、M字カーブが解消
- エネルギー供給の自由化の進展
 - ⇒多様な事業者が発電施設を整備し電力ビジネスを展開
- 世界の人々の往来がこれまで以上に活発化
 - ⇒外国企業の誘致や外国人人材の受け入れが進んでいる
 - ⇒通関スマート化で世界各国への移動がパスポート一枚で可能に
- 芸術・文化への接点が増加
 - ⇒世界中の伝統・若者文化、現代アートなどを体感する機会が増加
- ライフスタイルの多様化が進展
 - ⇒価値観の多様化や、生産性の向上で時間的なゆとりが生まれることにより多様なライフスタイルがこれまで以上に進展
- 自然災害に対する新たな対応
 - ⇒現行の震災・水害対策は概ね完了し、未曾有の自然災害を見据えて、防災や復興計画を組み込んだ新たな都市づくりが展開

■ 技術革新がもたらす社会の変化

- 自動運転技術
 - ⇒レベル4の完全自動走行システムが実現し、人・車・交通環境の一体的な取組みで、交通弱者の自由な移動や物流の効率化を支える社会が構築
- エネルギー技術
 - ⇒再生可能エネルギーの最大利用や水素の活用、燃料電池自動車や電気自動車などの普及が拡大し、CO2を排出しない社会が構築
- ロボット・人工知能技術
 - ⇒知性や感性を持った、多様なロボットが産業・福祉分野に幅広く導入、労働力・人材不足も解消された社会が構築
- 情報・通信技術
 - ⇒官民の様々なデータがオープン化され、新しい発想によるサービスが創出
 - ⇒IoT社会の構築でカスタムメイド化が進み、品質や生産性が向上

委員の意見

- ・人口減少にかかる諸問題の解決が積極的に図られているという観点を示すべき。
- ・自然災害だけでなくテロやサイバー攻撃などのリスクを克服している姿を示すべき。

2040年代における世界・日本の中での東京の役割(イメージ)

■ 世界の中の東京

- ・ **世界・アジアと向き合う** : 世界最大の都市機能の集積と対流による多様な魅力と新たなイノベーションが世界をリード
- ・ **都市課題解決モデルの発信** : 高齢化社会や自然災害への対応など都市が抱える課題をいち早く解決し世界に貢献
- ・ **先進と伝統の融合** : 江戸以来の歴史や伝統と、東京独自の先鋭的なアートやカルチャーが常に競い合い世界を魅了

■ 日本の中の東京

- ・ **日本をリード** : 成熟国家の首都として、付加価値の高い産業の集積が経済活力を発揮し、日本の持続的な成長をリード
- ・ **日本各地と共生** : 特色ある産業や観光資源を有する日本各地と東京が、交通インフラにより交流し、それぞれの魅力を高めながら、世界に発信、相互に発展

委員の意見

- ・交通インフラだけでなく、通信インフラによりモノ・カネは交流する。
- ・日本各地と「協力」して互いの魅力を高め合うという点を強調。

都市像(イメージ)

- 高度な都市の集積とグローバルな人の交流により、新たな価値を生み続ける場として世界中の企業や人々に選択される都市
- 個性ある多様な地域・拠点において、あらゆる人が挑戦、活躍でき、質の高い住み方・働き方・憩い方を選択できる都市

主なテーマ

- ・ **世界の企業から選ばれる魅力**を備えた国際ビジネス拠点が持続的に更新され、常に新たなイノベーションが創出
- ・ **世界一発達した交通インフラ**に最先端の交通モードが組み合わせたり、超高齢社会においても自由自在な移動を実現
- ・ **甚大な災害リスクや環境問題への対応を進め、安全・安心で超低炭素なスマートエネルギー都市**を形成
- ・ **誰もが住み、働き、憩う場**を選択できることで、それぞれのライフスタイルや価値観を創造し、都市の活力を向上
- ・ **都市のゆとり空間が多様なコミュニティ**を生み出し、集約化された拠点を形成
- ・ **道路や河川、公園、公開空地など都市の公共空間**や既存ストックが、芸術・スポーツやにぎわいの場として多目的に活用され、新しい価値や出会いを創造
- ・ **緑あふれる都市空間・水辺空間**や豊かな自然が有機的に結びつき、四季折々の美しい風景が人々を魅了

地域像(イメージ)

- ・ **(仮)都心域**
常に変化を続ける国際的なビジネスハブを中心に持続的に連携・発展し、世界経済をリード
- ・ **(仮)都心連携域**
高密度な鉄道網により移動利便性が高く、業務・居住など複合的な中高密度の市街地が連担
- ・ **(仮)都市環境共生域(区部)**
木密地域の解消と環状方向の交通利便性の向上により、水とみどりにあふれ、安全で暮らしやすい住環境を再生・創出
- ・ **(仮)都市環境共生域(多摩)**
駅を中心とした利便性の高い生活拠点が、南北・東西方向の道路網の活用により、相互に連携し、誰もが安心していきいきと暮らす
- ・ **(仮)新産業創生域(多摩)**
高い技術力の企業や、留学生の集まる大学の集積と、圏央道やリニアなど多様なインフラの活用により、他圏域との交流が活発化し、新たな産業や雇用を創出
- ・ **(仮)自然環境共生域(多摩、島しょ)**
観光客を魅了する大自然と、最先端技術が共存

委員の意見

- ・名称は、さらにイメージを充実させる表現を模索すべき。

都市像を実現するための都市づくり(案)

- **都市構造** 都心域と多摩広域拠点がそれぞれ自立した機能を発揮するとともに、広域交通インフラにより、それぞれの広域拠点が相互に連携し、他圏域とも交流。このことにより、経済活力や文化、観光、先端技術など、様々な効果が日本各地及び世界へ波及
- **都市基盤** 世界一密な鉄道ネットワークとリダンダンシーが確保された道路ネットワーク、機能強化された空港や港湾が人・モノの活発な移動を支える。また、きめの細かい舟運ネットワークの形成や公共空間の多目的利用などが進展し、都市に新たな魅力を創出
- **土地利用** ライフスタイルや価値観の多様化に対応し、都市を複合的に利用する視点を強化するとともに、これまでの土地利用(業務、商業、住居等)に新たな視点(農、スポーツ、文化、ものづくり等)を付加

■ 仕組み・制度 等

各地域がかかえる多様な課題を解決するような分野横断的な取組みを展開。

「民」の力をできるだけ活用